

2013年5月3日掲載

「誰もが能力持っている」

テレビ北海道（TVh）を退職した後、岩手県で活動していたが、今春から夫の転勤に合わせて4年ぶりに札幌市民になった。例年になく大雪に戸惑ったものの、長い冬が明けて芽吹き始めた今、北の大地での生活にワクワクしている。

現在はコーチングという、会話で相手の前進や可能性を引き出すコミュニケーション・センスを生かし、札幌市内の専門学校で就職面接指導の講師を務め、若者に関わっている。

相談でよくあるのが「私には何もPRできるものがない」という内容。果たして本当に何もないのだろうか？例えば学生時代に飲食店でアルバイトをしていた人。忙しい時の仲間との協調性、ミスへの対応力、客との会話力、……。大変だった事や苦勞した事から得たものは必ずある。「リーダーをしたことがない」「アルバイトのことなんて、ほかと差別化が図れない」と尻込みしてしまう人もいる。しかし、企業などが求めているのは、結果ではない。結果に至るまで何をどう感じ、どう頑張ってきたのかという考えや行動の過程である。どんな体験をして何を得てきたのかを知りたいのだ。それに気づくことができれば、自分のPRできるものが明確になる。

就職活動する学生の話をお聴きしていると、「地元のために働きたい」という地元志向の人が多い。明日を担う若者たちが自分の能力に気づき、それをしっかり面接でアピールし、地元企業の採用につなげていくことが、道内活性化の原動力になると感じている。

（毎日新聞より）